

# 第5学年西組 社会科学習指導案

学習指導者 藤本 博文

## 1 単元 「日本の水産業の未来を創る人々」

### 2 単元について

#### (1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

##### 【育成したい「思考力」】

日本の水産業に関する自然条件や社会条件を、時間的・空間的視野や立場を広げて人々の取り組みと関係づけ、水産業に従事する人々の思いや願いを捉え、水産業の持続に対する解釈を再構成する力

我が国の水産業に携わる人々の取り組みを資料から調べたり、調べたことを基に話し合ったりしながら水産業を持続可能にするための工夫を探っている。

##### 【学びに熱中する子どもの姿】

子どもたちは、我が国の水産業について、日本の領土周辺は暖流と寒流がぶつかる潮目があることや大陸棚が広がっているといった自然条件、漁港の位置や交通網、漁場や漁法とそれらについての取り決めといった社会条件を調べる。それらから、「日本では、排他的経済水域によって漁場が守られ、潮の流れや水深に合わせて、取り方や運び方を工夫し、水産物を消費者に届けている。きっと、生産量を可能な限り高めたいという思いがある。だから水産業は持続するだろう」と水産業の持続性について解釈するだろう。ただ、生産量や漁業従事者の人数の推移を調べることで、水産業における問題点とそれを解決するためのさらなる工夫や努力について、問いをもつ。その際、日本の漁場になっている水域や燃料等の費用の推移や漁業に関する取り決めの変化、水産物の輸入先の広がり調べたり、生産者や行政等へと立場を広げたりして、「生産量を増やすためには、燃料が少なく済むように漁港から近い場所に、いけすを作って人工的に魚を育てたり、網の目を大きくして小さな魚を取らないようにする取り決めに自主的にしている」等と関係づけていく。それによって、「今の生産量だけでなく、将来の生産量も自分たちの努力で保障していこうと考えているんだ」という水産業に従事する人々の思いや願いを捉えることができ、水産業を持続するためには、地域が連携する仕組みをつくって協力したり、将来の漁獲量を上げるために、今取るのを自主的に制限したりしているという工夫や努力の上で成り立っていると、解釈を再構成していく。このような力の育成を目指す。

このような「思考力」の育成は、まず子どもたちが「身近にある水産物の生産量を保障するために、何か工夫や努力をしている人がいるはずだ。どんなことをしているのだろうか」という問いをもつことから始まる。そこから設定した課題を、資料を調べたり話し合ったりして解決していくのである。そして明らかにしていったことから、漁師の立場に立って「漁法をこう変えられないのかな」「必要な魚だけをとって、無駄をなくす方法はないかな」等と新たな工夫を予想し、そのためのさらなる資料や話し合いをもつ場を自ら求めていく。本単元ではこのような姿を目指す。

#### (2) 子どもの意識の流れを大切に単元構成について

本学級には、新たな社会的事象に出会うと、驚きや疑問を自然に声に出して言うことができる子どもが多い。また、友達が表出した問いであっても、「それを調べたい」と、追究意欲をもって学習を進めることができる。ただ、解決の見通しをもてない問題の解決に取り組むことに抵抗がある子どもが複数いることがAAIから分かっている。そこで、本単元では、子どもたちが消費者として欲しい魚像を基に、生産者の立場から、魚がどこから来ているのかを食卓からさかのぼり、流通の様子として調べさせる。

その後、消費者の願いを叶える立場として、漁師へと立場を変えて、漁師の工夫を調べる。また、従来教材の育てる漁業だけでなく、未利用魚・マイナー魚を活用する取り組みを取り上げることで消費者と生産者両方の立場に立ち、持続可能な水産業への問題意識をもてるようにしたい。

(3) 単元計画と学習意欲への働きかけ (総時数 7時間)

次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ
第一 次	<p>① 私たちの身の回りには、たくさんの水産物がある。スーパーには同じ種類の魚は同じような大きさで並んでいる。いつでも食べられるものと、旬のある魚があるよ。</p> <p><b>私たちが食べる魚は、どうやって届いているのだろう</b></p> <p>主にお店←工場←市場←海だね。どこの海で取れるのかな。</p> <p>特に太平洋側で、多く暖流と寒流で、取れる種類が異なる。大陸棚で、多くの魚が取れる。</p> <p>②③ <b>身近な魚をどうやって取っているのだろう</b></p> <p>種類によって住んでいる場所が違う。だから、遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業それぞれに必要な魚を取っている。</p> <p>魚によって取り方、時期、漁獲量が違うため、価格も時期や漁獲量に左右される。漁師はそれらや消費者の思いに合わせて漁業を営んでいる。</p>	<p>②～⑦ 班の対話後、ボードに考えを位置づけ、考えを深めたり広げたりしたことを称賛する。</p> <p><b>【発言の成功体験 (自信)】</b></p> <p>③④⑥⑦ 素朴な予想から考えの手がかりとなる発言を取り上げ、全体で共有したり、参考になる資料を確認したりする。</p> <p><b>【手がかりの共有 (関連性)】</b></p>
第二 次	<p>④ <b>なぜ、魚の生産量が減っているのだろう</b></p> <p>魚の取りすぎ等で、漁業従事者が減少し、操業が難しくなってきたんだ。二百海里水域の取り決めで、漁船が行ける範囲が狭くなった。ロシア等の外国との関係も問題だ。</p> <p>⑤ <b>魚の生産量を増やすために、どんな工夫をしているのだろう</b></p> <p>養殖漁業や栽培漁業で人工的に魚を増やすことで、短期にも長期にも一定の生産量を確保できるように工夫している。</p> <p>⑥ <b>生産量を増やしたいのに、なぜ漁師は取った魚を捨てるのだろう</b></p> <p>養殖をして生産量を上げようとしているのに、漁師は底引き網や定置網漁の魚を2～5割も捨てているそうだ。</p> <p>数や大きさ、といった条件がそろわないと魚は売れないんだ。流通しないものは捨てられてしまっても仕方がないな。</p> <p>⑦ 本時(7/7)</p> <p>鈴木さんは未利用魚・マイナー魚を集めて売っているそうだ。</p> <p><b>なぜ鈴木さんは、未利用魚・マイナー魚を流通させたのだろう</b></p> <p>魚を無駄にしないように飲食店等に売れる仕組みをつくったんだ。それなら漁師も助かるし、珍しい魚を食べたい人も喜ぶよ。</p> <p>私たちが食べている水産物は、漁業とそれに関わる人が、さまざまな工夫や努力をして届けられることが分かった。</p>	<p>— 評価規準 (第1次) —</p> <p>水産業に従事する人々の工夫や努力によって、生産量を確保していることを捉えている。</p> <p>⑦ 既習により得た認識とのずれを起こす教材を提示する。<b>【教材の工夫 (注意)】</b></p> <p>— 評価規準 (第2次) —</p> <p>水産業に従事する人々の工夫や努力が、今だけでなく未来の生産量も大切にしたい工夫や努力をしていることを捉えている。</p>

### 3 本時の学習指導

#### (1) 目標

未利用魚・マイナー魚を流通させることができた理由を、捨てられている魚の種類や量、連携している漁港の数、捨てられている魚の価値等と関係づけて、生産量を高める工夫として説明することができる。

#### (2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ど も の 意 識
<p>・学習前の子どもの課題意識</p>	<p>大きさ、見た目の悪さ、取れる量から考えると、スーパーマーケット等のお店や消費者には売ることができないから、未利用魚・マイナー魚として港へも持ち帰らずに捨てている。</p>
<p>1 未利用魚・マイナー魚を流通させている事実から、流通についての問いを立てる。</p>	<p>鈴木さんという人は、未利用魚・マイナー魚を集めて流通させている取り組みを始めたんだ。どんな仕組みだろう。</p>
<p>2 未利用魚・マイナー魚の流通経路について調べ、感じたことを基に学習課題を立てる。 <b>【教材の工夫】</b></p>	<p>北海道から鹿児島まで、300以上もの漁港から未利用魚・マイナー魚を集めて、それを必要としているお店や消費者にも売り込み、流通する仕組みを作ったんだ。一人で全国の漁港を回ったなんて、すごいなあ。なんでそこまでして未利用魚・マイナー魚を流通させたんだろう。</p>
<p>3 自分の考えをもつ。</p>	<p><b>なぜ鈴木さんは未利用魚・マイナー魚を流通させたのだろう</b></p>
<p>(1) 全体で話し合い、考えの見通しをもつ。</p>	<p>たくさんの魚を捨て続けたら、漁師はどうなるだろう。消費者は、どんな魚を食べたいと思っているのだろう。</p>
<p><b>【見通しの共有】</b> (2) 自分の考えをノートに書く。</p>	<p>漁師の売り上げがもっと減ってしまふ。そうすると、漁業従事者の数が減ってしまうんじゃないかな。その地域限定の魚や珍しい魚を食べたい人は、おいしいのならばぜひ食べたいと思う。小漁師を助けるために、この魚を使い料理屋なら、大きさや形が少し違っても買ってくれるよ。</p>
<p>(3) 考えたことを話し合い、考えの妥当性を高める。</p>	<p>漁師は取った魚に値段がつくことで、消費者にとっては珍しくておいしい魚を食べられることで、どちらにとってもいいことがある。漁師さんにとっても、鈴木さんにとっても、消費者にとってもよいことがある工夫だね。</p>
<p><b>【発言の成功体験】</b></p>	
<p>4 鈴木さんの思いを資料から読み、分かったことと感じたことをノートにまとめる。</p>	<p>予想したことは当たっていたよ。鈴木さんは、未利用魚・マイナー魚の流通によって、漁師の助けになりたいという思いと、水産業を発展させたいという思いでこの仕事をしているんだ。</p>
<p>5 単元で学習したことをまとめ、感想を書く。</p>	<p>水産業では、魚の生産量を高めるために、漁師のさまざまな工夫があった。また、将来の水産業のことを考えて、漁師を助けたり、魚を人工的に増やす工夫も行われていた。こうやって、水産業を持続可能にしていることが分かった。</p>

### (3) 本時の働きかけの実際と目指す子どもの姿

#### 前時までの子どもの意識

「なぜ、せっかく取った魚を、2～5割も捨てているのか」という前時の問いが、捨てられる魚は、大きさが合わないこと、数が一定数に満たないこと、一般家庭にはなじみがないことにより、市場に出しても売れない、つまり流通できない魚であることを調べ、「そういう魚であれば、捨てるしかない」という認識をもっている。

#### 学習活動1

上記の内容を確認した後、捨てているはずの未利用魚・マイナー魚を集めて流通させている人がいることを知らせる。それにより、子どもたちは、前時の意識とのずれから、「流通できない魚をどうやって流通させているのだろう」という問いをもつようにする。

#### 学習活動2

そこで、鈴木さんの取り組みとして、北海道から鹿児島島の300以上の漁港から、未利用魚・マイナー魚を、愛知県の会社を集めていること、販売先が140か所以上の料理屋やスーパーマーケットであること等を紹介する。そのような取り組みを知ることで、子どもたちは、なぜそこまでして捨てるはずの魚を流通させるのかという問いをもつことから学習課題を設定できるようにする。

#### 学習活動3(1)

学習問題を書いた後、「なぜだと思う」と問いかけると、「儲かる人がいるから」、「探したら小さくても少なくてもいいという人がいたから」等と、漁師や鈴木さん、買い手の思いを手がかりに予想をするだろう。このように時間的・空間的視野、立場を広げて考えようとしていることを称賛し、もった考えの見通しに自信がもてるようにする。友達のをヒントにしてもよいことを助言したり、「たくさん魚を捨てるのがこれからもずっと続くと、未来の漁師は、どうなると思いますか」と、助言をするとともに、漁業従事者の推移を表したグラフを提示する。それによって、時間的視野を未来に広げて考えようとするができるようにして、「自分はこれを手がかりにしたら考えられそうだ」と思考への意欲をもてるようにする。

#### 学習活動3(3)

自分の考えを書いた子どもたちに、班ごとに配布しているホワイトボードに、考えや根拠となる資料の共通部分と異なる部分で色分けをしながら班全員の考えをまとめさせていく。班での話し合いが終わったら、「自分の考えを出すことで、考えがより広がったり深まったりします。素晴らしい学習の進め方ができていますよ。」と称賛する。それにより、自己有用感をもって、今後も発表しようとする気持ちをもてるようにする。

#### 学習活動5

本時のまとめを書いた後、「水産業の学習をして、水産業について考えたことや感想を書きましょう。勉強のしかたについて感じたことも書いていいですよ。」と促す。その後、第一次で書かせた水産業についての考えや感想と比べさせる。それにより、時間軸を未来へと広げて水産業を考えた人々の営みを学習できたことを視覚的に感じ取ることができるだろう。また、勉強のしかたについての感想を発表させることで、学習対象が変わっても、同じような学び方を使って学習したいという学習の型の価値を学級全体で共有することができるようにしたい。

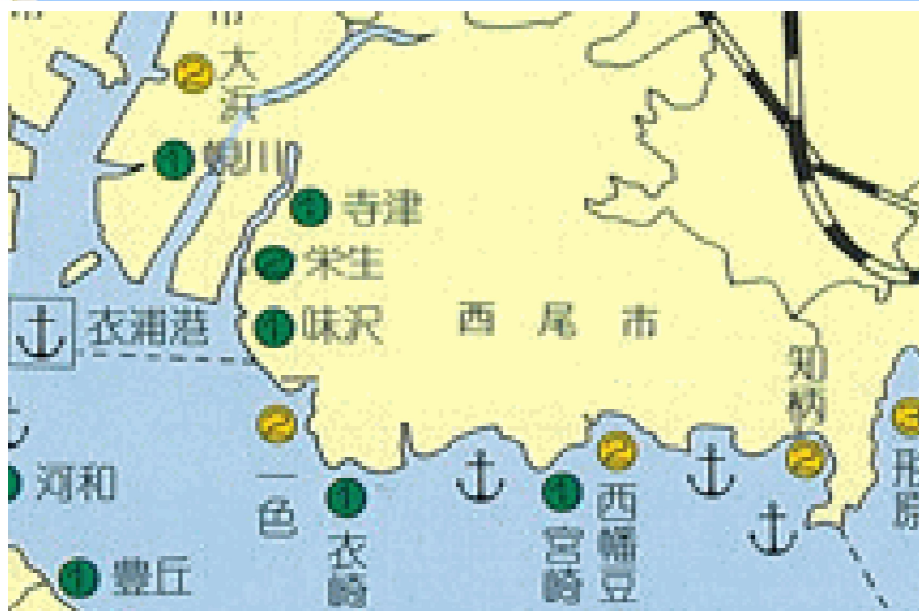
### (4) 総括的評価

水産物の生産量を高める工夫を、今だけでなく未来のことも考えて進めていることを、ノートにまとめている。

<例> 漁業をしている人や、流通させている鈴木さんは、水産業の未来のことを考えて、魚を育てたり捨てる魚を流通させたりしていることが分かりました。 【方法：ノート】

無題のレイヤ

- プロスパー蒲郡工場
- 愛知県蒲郡市形原町北双太山114-3
- プロスパー本社
- 蒲郡形原漁港
- 蒲郡西浦漁港
- 幡豆郡一色漁港
- 碧南大浜漁協
- 幡豆郡西幡豆漁協
- 幡豆郡東幡豆漁港



086084

## 幡豆漁業協同組合

- トップページ
- 市場おススメ情報
- 潮干狩り情報
- 交通アクセス
- 天気予報
- リンク

- 漁業者のブログ
- 管理人のブログ

幡豆(はず)漁港



平成28年度の潮干狩りは終了しました！！

6月8日より全面禁漁となります。

